

人工呼吸器装着中で意思疎通困難な患者の家族が面会を続けている理由

本田美千代^{1)*} 伊賀由希菜¹⁾ 榮将展¹⁾ 上田素子¹⁾ 高間さとみ²⁾

1) 国立病院機構鳥取医療センター看護部 1 病棟

2) 鳥取大学医学部保健学科看護学専攻地域・精神看護学講座

Reason for continuing family visitation for a patient receiving mechanical ventilation who finds it difficult to communicate

Michiyo Honda^{1)*}, Yukina Iga¹⁾, Masanori Sakae¹⁾, Motoko Ueda¹⁾, Satomi Takama²⁾

1) The 1st Ward, Department of Nursing, NHO Tottori Medical Center

2) Department of Nursing Care Environment and Mental Health, School of Health Sciences,
Tottori University Faculty of Medicine

*Correspondence: 鳥取市三津 876 鳥取医療センター1 病棟

要旨

D 病棟には、患者との意思疎通が困難な状況にも拘わらず、長期入院の状況下で、頻回な面会を続けている家族が多々いる。患者と関わり続けているのはどのような思いからなのか知りたいと思い、人工呼吸器装着中で意思疎通が困難な患者の家族を対象にインタビューを行った。面会を継続している理由として、①夫の病気の状態や看護師の夫への対応等、気になることが多々あるから。②夫は自分のことや周りの状況を分かっていると信じており、何らかの形で意思疎通ができていると感じているから。③同じ病気の家族を持ち、長い時間、同じ時を過ごしてきた他患者家族との交流により安心するから。以上 3 つの理由が明らかになった。このような理由を知ることで、家族支援や家族との対話を視野に入れた看護実践に繋げて行きたい。鳥取臨床科学 10(1), 1-6, 2018

Abstract

Many family members continue to frequently visit patients at Ward D who are undergoing long-term hospitalization despite finding it difficult to communicate with such patients. We conducted interviews with the family member (wife) of a male patient receiving mechanical ventilation who finds it difficult to communicate in order to determine why the wife continues her involvement with the patient. We found that there were three reasons for continuing visits. These were: (1) having many concerns such as the state of her husband's illness and how nurses were treating her husband, (2) believing that her husband understood who she was and what situation he was in, and feeling that they could engage in some form of communication, and (3) feeling comforted by spending long amounts of time in the same situation with the family members of other patients who had a family member with the same disease. We hope to utilize these findings in nursing practice that takes family support and dialogue with families into account. Tottori J. Clin. Res. 10(1), 1-6, 2018

Key words: 意思疎通困難な患者, 患者家族, 家族の面会, 人工呼吸器, 神経難病; patients who find it difficult to communicate, patient family members, family visitation, mechanical ventilation, intractable neurological disease

はじめに

難病は原因不明で治療法がなく, 予後不良な疾患とされる。難病患者は, 療養生活が長期にわたり, 進行性の重複障害を伴うため, 症状・予後に対する大きな不安を抱えている。そして, その家族もまた, 経済的・精神的・身体的負担を抱えており, 家族支援は大きな課題である。しかし実際には, 病棟では家族と改めて患者の疾患についての思いや現在の心理状況等について話す機会は少ない。

野嶋¹⁾は「家族と病者とのコミュニケーションが困難になると, 徐々に疎遠になり, 療養生活に対してネガティブな感情を抱え込むことにもなりかねない」と述べているが, D病棟には, 入院期間が長期にわたり, 患者との意思疎通が困難な状況であるにも拘わらず, 頻回な面会を続けている家族が多々いる。患者と関わり続けているのはどのような思いからなのか, 知りたいと思った。

そこで, D病棟に入院中の神経難病患者のうち, 人工呼吸器装着中で意志疎通が困難な患者の家族を対象にインタビューを行い, 面会を続けている理由を明らかにしたいと考え, 本研究に取り組んだ。

I. 研究方法

1. 研究対象

A氏, 70歳代女性, 患者(B氏)の妻。

面会の頻度: 週3~4日。

1回の面会時間: 10時半頃~17時頃まで。

病院までの交通手段: 地域のコミュニティバス, または次男の送迎。

家族構成: 夫, 長男(死別), 次男。

患者B氏: 70歳代男性。

以下, 便宜上「夫」と表記する。

病名: 筋萎縮性側索硬化症(ALS)。

病歴: 15年前頃より歩行困難となり, ALSと診断された。自宅で療養生活を行っていたが, 翌年, 原疾患進行による呼吸筋麻痺により人工呼吸器装着となった。舌を出し入れすることでYES・NOを表していたが, 2年前より難しくなり, 現在は, 言語及び非言語的意思疎通は困難な状態である。

2. 研究期間: 20XX年8月から6ヶ月間。

3. 研究場所: C病院D病棟。

4. データの収集方法

1) 研究対象者の選定を行った。

D病棟に入院中の神経難病患者50名のうち, ①人工呼吸器装着中であること, ②意思疎通が困難な患者であること, ③面会の頻度が週3日以上であること, の3条件全てを満たし, 研究への同意が得られた患者を対象者とした。

2) 研究の目的・方法を文書にて研究対象者に説明を行い, 同意を得た。

3) 対象者へ事前にインタビューガイドを簡略化した資料を配布し, インタビュー当日はそれをもとにして, 対象者へインタビューを実施した。インタビューは半構造的面接法にて90分程度のデータが得られるようにした。インタビューはインタビュアー・補助者・記録者に役割分担し, 看護師3名で行った。インタビュー内容は了承を得た上で録音した。

5. データ分析方法

1) 録音したインタビュー内容にて逐語録を作成した。

2) 夫B氏の病状の変化を読み取り, 分類を行った。

3) 分類した病期(II. 結果に記載)ごとに, A氏が夫B氏と関わり続けている理由についての語りを整理し, 概念ごとにカテゴリー